

新緑の山里宇目を訪ねて

宮崎 千ズ

(会員・中村北町)

石垣を覆ひ咲きたる芝ざくら緑明るき宇目町に入る
初探訪風さわやかに宇目の山み墓苔むし鎮り立てり
今日ひと日古代の乙女になりてみむ道の辺に摘む宇目の
さわらび

風化せる一基の墓に近づきて刻める文字をなぞりて読め
り

墓石台見猿聞か猿言は猿の姿刻まれ苔むしてあり
丘に立ち傾遠く真向ひに四方の山野は新芽増し来ぬ
庄屋跡石の囲ひはゆるがずに榮古の面影尚とどめたり
堀り出せし五輪の塔は傾きて互に寄り添ひ野の徑に立つ
良質の竹林腐葉土持ちかへる生えし鳴子も宇目の土産に
新らしき会長と共に宇目探訪踏みしめし丘竹林の上
雨上り新緑の風すがすがし宇目の山野に別れ惜しむ

五月四日

表紙解説

地 神 塔 宇目町見明 慶安寺

この塔のある慶安寺を、地区の人々は庵と呼んでいる。ここには珍らしい石造物が多く、この地神塔もここにある。この塔を地区の人々は「じじんさま」と呼んでいる。昔はお籠をしてお祭をしていたというが、今日ではその風習はすたれてしまった。

中国大陸や台湾では、地神は「土地公」と呼ばれて今日でも大切に祭られている。台湾では日本の氏神様のように、どんな小さな部落にも必ず小さな石の祠に祭られている。

部落の人々は、善きにつけ悪しきにつけ、何か事があると必ずご馳走をつくり「土地公」にお供えしてお参りする。生活に密着した最も身近な神様が「土地公」である。

(塩月)